

動物の診察室から

〇 68 〇

アヤちゃんは、21歳の三毛猫です。10歳くらいの頃から、時々嘔吐（おうと）をすることがあり、おなかの触診をすると、そのときはいつも腸がコリコリしているのです。そのような症状はステロイドによく反応して、アヤちゃんも治療をするとすぐに良くなっていました。

でも、3年ほど前からアヤちゃんは顔に腫瘍ができたり、ケイレン発作

なりませぬ。皮下補液は、動物は皮膚にたるみがあるのので、皮膚の下に点滴液をある程度入れることができ、通院でも治療が可能です。

アヤちゃんは、腎臓病のため皮下補液をしていましたが、昨年の夏ごろに注射で入れた液体が、全部は体に吸収されず、

# 家族皆で見守るために

## アヤちゃん日誌

も時々起こしたり、昨年のはじめからは、腎臓の値が悪くなり、毎日皮下補液に通うようになりまし

点滴は血管に、点滴液をボタボタと少しずつ入れていきます。点滴の速度をあまり速くすることはできませんので、点滴の場合は入院することに

胸に水がたまってしまった。心臓の具合もかなり悪くなっていたので、そして、いったん胸の水が引いて、状態が良くなった後は、心臓の薬も使うことになりました。

毎日通ってくるので、心臓の薬も病院であけることにしました。だんだ

んやせてきており、栄養の補給も必要なため、カロリーの高いペースト状の食事に薬を混ぜて、注射器で直接アヤちゃんに食べさせてあげるので

アヤちゃんは、それを上手に飲み込んでくれます。カロリーの高い食事をこのようにあげるこ

はよくあるのですが、アヤちゃんの食事には、薬が混せてあるので、いつのころからか、アヤちゃんの注射器に入れた食事のことを「アヤちゃんのませご飯」と呼ぶようになりました。

毎日注射が終わると、「アヤちゃん、ませご飯食べようね」と言って、食事を食べさせています。昨年の暮れからは、体重がまた減ってきたため、注射器の食事が2本

書くてありました。以前はお母さまがアヤちゃんの世話をしていたのですが、仕事へ出るようになったため、アヤちゃんの状態をご家族みんながわかるように日誌をつけ始めたのだそうです。お父さまも、お兄さまも、みんなで気づいたことを書くのです。そんな優しいご家族にかわいがられているので、アヤちゃんは頑張っているのですね。



ご飯をもらう用意をしたアヤちゃんと日誌

になり、ご飯のおかわりです。

最近になって、お家では「アヤちゃん日誌」をつけているそうです。日誌を見せてもらうと、お

しつこの回数や食べた食事の量などが、時間を追って

